

## 令和6年度第1回三島市廃棄物処理対策審議会 会議録

### 1. 日時

令和7年1月16日（木）午後2時00分から午後3時20分まで

### 2. 場所

三島市役所本館3階 第1会議室

### 3. 出席者

【委員】：遠藤委員、大淵委員、野田(千)委員、野田(好)委員、早川委員、  
平井委員、平川委員、山本委員、渡邊(聡)委員、渡邊(道)委員  
※五十音順、委員15人中10人が出席

【事務局】：臼井環境市民部長

廃棄物対策課：橋本課長、原副参事、細木副技監、菅藤課長補佐、  
新井主幹、山添主査

### 4. 会議の公開・非公開の別

公開

### 5. 傍聴人

0人

### 6. 審議会の内容

#### (1) 開会

#### (2) 委嘱状の交付

団体の役職交代等による新任委員に対し、臼井環境市民部長から委嘱状を  
交付した。

#### (3) 挨拶

臼井環境市民部長、平井会長

#### (4) 新任委員の紹介

新任委員からの自己紹介

#### (5) 議題

##### ①三島市のごみ処理状況について【資料1】

<事務局から資料に基づき説明>

<質疑応答>

委員：ふれあいさわやか回収について、世帯全員が要介護、要支援などの条件があるようだが、ひとり暮らしのお年寄りで、普通にごみ出しができなくて困っているような方にも手を差し伸べることはできないか。

事務局：この制度は基本的には、ケアマネージャーや障がいの担当者から相談があった方について、個別に面談をして。実施の可否を判定している。そういった事情の方については、ご相談いただければ、個別に面談等をさせてもらい、状況を見た中で、判断させていただきたい。

委員：そういう場合は、家族や近所の方とかが地域の民生委員を介さなくても、市に直接相談すれば、検討してもらえるか。

事務局：基本は、要介護や障がいの手帳を持っているなどの条件にはなるが、そうでないということであれば、いろいろ話を聞いた上で判断させていただく。

委員：リサイクル率の比較で、三島市が35市町中31位と低い状況になっているが、1位の御前崎市では何か特別な取り組みをしているのか、三島市でも何かそういった特別な取り組みをしていくべきではないか。

事務局：御前崎市のリサイクルの状況について、これだけリサイクル率が高いというのは、考えられる要因として、2つ挙げられる。

1つは、三島市では燃えるごみとして収集しているプラスチック類の分別収集、リサイクル、もう1つは、焼却灰のリサイクルで、三島市では昨年約2,500トンの焼却灰を埋立処理しているが、それらを全部リサイクルすればリサイクル率もかなり上がると思われる。

委員：プラスチック類の分別については、処理する施設が必要になったり、大変だと思うが、分別収集する計画はあるか。

事務局：今後、三島市の焼却施設もかなり古くなってきており、年末に新聞報道などあったが、新しい施設を広域で作ることを検討している。

広域もしくは三島市単独で施設をつくるにしても、莫大なお金がかかるので、国からの交付金を受ける計画としているが、受ける条件として、プラスチックは分別収集してリサイクルしなければならないので、少なくとも新しい施設をつくる際には、プラスチックの分別収集を始める必要がある。

会長：若干補足説明させていただくと、リサイクル率の比較で、御前崎市は、牧之原市と広域で牧之原市御前崎市広域施設組合でごみ処理場を運営しており、今後、吉田町や島田市も含めた広域化を検討しなくてはいけない状況で、ごみ処理場が老朽化しており、非常に厳しい状態であるため、プラスチックの分別はもちろん、焼却灰は全部外へ持ち出して、セメント工場等でリサイクルしている。

三島市も先ほど課長さんの話の通り様々な課題があるが、今後その方向の流れになっていけば、リサイクル率も上がってくると思う。

資源化量の推移というところで、資源化量がどんどん減少してきているということで、古紙は象徴的で、平成26年度と令和5年度を比べると40%減少しているが、古紙業者の立場から、最近の紙のリサイクルの状況はどのようなものか。

委員：新聞については、一番出た時期から発行部数が4割ぐらい減り、全く集まりが悪い。雑誌類も統計が出ており65%ぐらい減り、やはりこれも集まりが悪い。ただ、雑がみを燃えるごみから分けたことにより、雑紙

と雑誌みたいな形で一緒にリサイクルしているので、減ってはいるが、減少幅はそれほどではない。ダンボールに関しては、ほぼ物流で使っていることから、それなりに97、98%ぐらいで推移している。

委員：廃食油とあるが、最近、テレビのコマーシャルでセブンイレブンが回収を始めるといふのを見たが、三島市としても関わっていけば、便利になると思うがどうか。

事務局：そのコマーシャルは存じ上げないが。ごみの分別区分の中で、この廃食用油だけは廃棄物対策課が実施しているものではなく、環境政策課で行っており、リサイクルしているということで、分別区分の中に入れてあるが、今後どうするかという話は、この場ではお答えできない。

会長：国の方でも、廃食油については、SAF（持続可能な航空燃料）として、今すごく重要な資源と認識している。こうした環境問題はヨーロッパでは非常に敏感で、ドイツのフランクフルト国際空港などでは、ジェット燃料の中にSAFなどの代替燃料をある程度入れてないと降りることが出来なくなってきたことから、JALも今必死にやっている。

委員：廃食油を測候所で集めていたが、現在は錦田や北上の公民館で集めていることを知らずに測候所に持ってきたが、集めていないので困っている人たちが結構いたので、周知が必要ではないか。

事務局：ご指摘いただいた東本町にある測候所跡地（エコセンター）については、耐震診断の結果、大変危険な建物で、中に入ることも危険だという判定だったため、閉鎖している。廃食油について、せっかく持ってきていただいたのに、無駄にならないように、何か周知の方法は、考える。

事務局：補足として、すでにエコセンターでは回収していないことと、中郷文化プラザ、北上文化プラザ、錦田公民館で回収していることは「家庭ごみの分け方出し方」という冊子に掲載し、市民の皆様へ全戸配布している。

②三島市フードロスゼロ推進店認定制度の創設及びフードシェアリングサービス「タベスケ」の試験導入について【資料2-1】

③「メルカリ Shops」を活用した粗大ごみ等のリユース事業に係る進捗状況について【資料2-2】

④三島市災害廃棄物処理計画における災害廃棄物仮置場予定地（徳倉グラウンド）の削除について【資料2-3】

<事務局から資料に基づき説明>

<質疑応答>

委員：三島市フードロスゼロ推進店認定制度について、対象が各事業者になっているが、認定店の数として飲食店、小売店などどのような業種が多

いか。また、具体的な取り組みについて、タベスケの活用や値引きをやっていると思うが、それ以外に何か具体的な取り組みをされているか教えてほしい。

事務局：認定店については、飲食店より小規模な小売店舗が多い。事業内容は食品ロスの削減が目的になっており、具体的な取り組みとしては、値引きをはじめ、子ども食堂やフードバンクへの寄付、手前どり、食品ロスに関するポスター掲示、周知啓発活動等、幅の広い活動を実施している。

委員：フードシェアリングサービスのタベスケについて、少し前に知り合いから教えてもらい、利用しているが、他の市でも何かやっているところはあるみたいだが、着実に成果が上がっているのは三島市が初めてみたいな話を聞いている。地区によって参加している店舗が少ないところもあるので、もっと店舗を拡大してもらいたい。

事務局：現在、静岡県では三島市が初めての事業で、全国的に30自治体ぐらい今やっているが、福島市や姫路市など一部しか上手くいっていない。

推測だが、店舗数をまず増やさないと魅力がなくて、みんなが使わない、楽しくないということで、店舗及び商品数を増やさないと。出品はされないのでもつまらないということになり、ユーザーも店舗を増えていかない。三島市では、商工会議所と連携して店舗を増やすよう、電話を掛けたり、店舗に直接行って話をしているが、かなり断られている。

ただ、今の傾向として、今月NHKの全国放送で流れたが、メディアに取り上げてもらうと、以前断られた店舗が協力していただけるようになったこともあるので、店舗をもう少し増やして魅力度を上げるように頑張りたい。

会長：三島市ではメルカリとタベスケ、面白いことを一生懸命やっているということで、皆さんに宣伝していきたいと思う。

#### (7) 連絡事項

- ・本日の議題に対する意見、改めて気づいた点等がある場合は、「ご意見等連絡票」に記入し、1月24日（金）までに事務局への提出を依頼。
- ・今後の審議会開催予定だが、令和7年度は三島市一般廃棄物処理基本計画の改訂を行う予定で、当審議会に諮問させていただき、審議、答申していただくため、3回もしくは4回の開催を予定。次回の審議会は、7月開催を予定しており、日時・会場等決定次第、開催の案内通知を送付。

#### (8) 閉会